「ねんりんピック体験談（愛顔えひめ大会)」
～だから楽苦美？はやめられない！～

ラグビーフットボール競技参加
（岩手不惑チーム　スクラムハーフ）菅野　成厚

いきいき財団さんからの封書を開けると、愛媛大会の成績表が目に留まり何とはなく目を通す。が、思わず〝にんまり“。もしや我々ラグビーチームは岩手県選手団の中でも成績優秀だったのでは？！・・・と。大会の趣旨からはズレてるのかもしれないけれど、つい胸を張っている我に気づく。

ラグビーのメンバーは皆、体はどこかかしこ痛んでしまっていて満足なプレーも危ぶまれるはずなのに、グランドに出てホイッスルが吹かれると目の色が変わってしまう（今大会でも骨折中なのに出場し、トライまでしちゃった強者１名)。

そんな仲間達との遠征は、現役時代と同じモチベーションに錯覚している自分に笑えたり、これからあと何年走れるかなぁと寂しさがこみ上げてきたり、好きなことさせてもらって母ちゃんに悪いなあと思ったり、四国ってもう冥途の土産か？etc。様々なことが支離滅裂に湧き上がってくる５日間でした。

交流試合は２日に渡って２試合。１試合目は山口県と対戦、自分の無理なパスからピンチを招き先制トライを献上、出だしでチョット躓く。でもフォワード（最前線で相手と渡り合うポジション）が徐々に圧倒しだし、終わってみればワンサイドゲーム。

翌日は兵庫県。ここには個人的思い入れがあり是が非でもリベンジ（昔、国体準決勝で兵庫に敗れた時一緒に戦ったメンバーが我がチーム内に何名か居り、「因縁の相手との檜舞台」だと勝手に設定）と。この試合は、メンバーが一つになって(まさにラグビー精神の all for one)ゲームプラン通りの完璧な展開に持ち込み、またワールドカップレベル（特に想いとイメージだけは）のプレーが随所に飛び出し、少なくとも令和に入ってからのベストゲームが出来たのではないかと、しかも全国大会の場で『みんなスゲー！！』。(応援に来ていただいた本県事務局の〇〇さんの前で良いところお見せできたかも。)

実況アナウンサーのラガールに入ってもらって一緒に記念撮影
（みんな、大会テーマまんまのいい愛顔（笑顔）！）

試合会場では、若いスタッフが一生懸命お世話してくれ、特にゲーム中は女子高生（ラガール？）が実況アナウンスしてくれて、大盛り上がりでした。独走なんかあれば『Oh 早い、でももっと早く、走り切れ！』は序の口、極めつけは我がチームのキックの名手（ジャパンも夢じゃなかった？）がコンバージョン（トライ後のゴール狙い）を決めると「ナイスキック！私より上手い!!」では場内大爆笑の渦。（おかげで皆楽しく頑張れた、ありがとね！）

大活躍の自分
（実はボールをノッコン（前に落とす反則）、トライチャンスだったのに⤵。隣は V7 新日鉄釜石の北の鉄人千田君。）

ラグビー界では、４０歳代からの『不惑チーム』が全国各地で編成されており、パンツの色で年代を識別（４０代から年代順に、白、紺、60 代から赤、黄、紫、90 代はなんと金・ゴールド）。上の世代には敬意を払ったいたわりのタックルで、どの年代も一緒にプレーできるようなシステムとなっています。ですので、ねんりんピックの精神に相通ずるものが流れているのではないでしょうか？

シーズン中は毎週きつい朝練
（岩手の不惑チームは、盛岡、北上、奥州、宮古、釜石の５チーム。練習には早起きして盛岡に各地から集まります。）

おめでとうございます！紫パンツの舘洞父ちゃん
（チーム内では“父ちゃん”と呼ばれています。）

ねんりんピックは赤パンツ以上の参加ですが、黄、紫、金色の大先輩方の出場も多数あり、本県でも紫パンツの宮古の舘洞先輩が果敢にトライを狙いました。（ゴールラインまであと５メートルだったんだけどなぁ。）今回高齢者出場者として表彰を受けられました。

プレーヤーだけではなく、岩手不惑チームのマネージャーがねんりんピックには毎回同行、年寄り達の我儘三昧に対処してくれています。チームの GM（代表）がその労をたまにはねぎらおうと提案、早めに試合が終わった中日に皆でレンタカーでの現地観光に繰り出し、金毘羅さんやきれいな瀬戸の夕日を堪能してもらい、非常に（たぶん）喜んでもらえたようでした。

今回の遠征では自称「帯同介護士」として奮闘の玉山マネージャー
（金毘羅さんは試合後で腿が上がらず頂上は遥か彼方、速攻で諦め。父母ケ浜では、気分はまさに“夕日に向かって走れ！”恋人の聖地具定展望台はチョット居づらかったかな？）

学生時代の先輩・後輩も各地からの参加で OB 会状態
（選手では滋賀、秋田、宮城から。若い後輩は高知県から応援に駆け付け。）

ねんりんピックのお陰で学生時代の先輩・後輩には試合会場で再会することができ、うれしい限りでした。しかし、分散会場という性格上、なかなか県内外の他競技関係者と（結団式、開会式以外は）接点がなく、岐阜では現地の飲み屋さんで偶然一緒になって盛り上がり合えたらいいですね。・・・飛騨牛（“いわて牛”は負けないぞ！）に舌鼓を打ちながらそれぞれの自慢話を・・・

ラグビーは“楽苦美”とも当て字出来ます。
年は取って“苦”“楽”は十分味わってきたつもりですが、“美”の領域にはまだまだヒヨコです。次回大会では要介護プレーでも何でもなりふり構わず年輪を重ねたシブくて美しい、素敵な“楽苦美”を岩手チームの皆で披露したいものです。

2023/12